



土場に積まれた市有林の広葉樹

飛騨市は、面積の九三%が森林で、その七割を広葉樹が占めており、春の新緑、秋の紅葉など、四季を通じて楽しむことができます。

しかしながら現在、市内で伐採される広葉樹のほとんどが、チツ



社の出資により「(株) 飛騨の森でクマは踊る」を設立しました。また、平成二十九年度には飛騨地域の木工作家による「ひだ木(ギ)フトプロジェクト」が発足しました。



ひだ木(ギ)フトによる製品

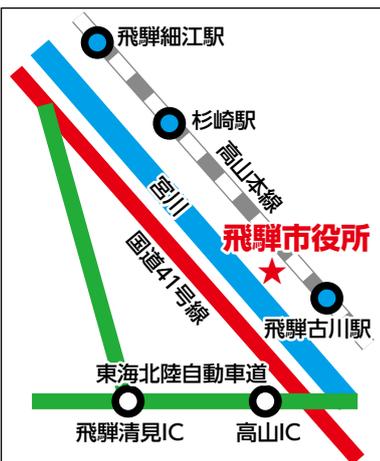
プ化され、製紙用あるいは燃料用として市外に、しかも家具等に使用される木材と比較して非常に安価で流出しています。市内には、ミズナラやブナを中心とした豊富な資源はありますが、平均胸高直径は二十六センチ程度と細く、家具などには使いづらい状況となっています。このような背景を踏まえて、飛騨市は平成二十七年に市内で伐採される広葉樹をチップなどより価値の高い木製品の商品開発や加工販売や広葉樹に関するその地域の交流拠点として、市と民間企業二



飛騨市役所応接室

このほか、市民とともに学ぶ「広葉樹のまちづくりセミナー」を開催し、広葉樹の利用価値を広く知っていただく活動も進めています。

この二つの取組は、飛騨市産の小径木広葉樹を活用した製品の開発から販売までを一貫して取り組むことにより、これまで飛騨市の広葉樹が安価に市外へ流出していた状況に歯止めをかけ、経済の循環を生み始めています。また、飛騨市役所の市長室隣にある応接室は、市内産広葉樹の木材をふんだんに使い、飛騨の自然の豊かさを感じられるよう改装がされました。直径十八〜三十センチの広葉樹を活用し椅子や机、壁面も多種類の広葉樹材を使用するなど木材利用をPRするシヨールームとなっています。



◆飛騨市役所へのアクセス
 【公共交通機関】JR高山本線古川駅下車徒歩5分
 【自動車】東海北陸自動車道 飛騨清見IC 高山IC 41号線飛騨方面へ二十分



広葉樹まちづくりセミナーの様子